

## 平成 30 年度 「エコツアー体験学習」におけるワークショップでの成果

### ( 1 ) ワークショップの目的

このワークショップでは、「自然資源の魅力の探し方、掴み方」「様々な主体間の連携の作り方」の 2 つの視点について、参加者が主体的に考え、下記のワークショップの狙いに示したような気付きや、モチベーションの向上の機会づくりを目的として実施しました。

#### 【ワークショップの狙い】

- ・エコツアーを企画運営する様々な立場の参加者同士で交流し、参加者のアイデアや経験を通して情報交換、意見交換を行うことで、エコツアーの企画運営に関する気付きを得る事。
- ・交流を通じて、エコツアーのような自然資源の保全活用方法に対する考えを共有し、ネットワークづくりや協働意識を高め、参加者のモチベーションを向上させる事。

また、昨年度に自然エリア 16「北摂・南丹」において、試行的に行ったエコツアーを通して作成された「エコツアー手引書」の利用普及も図りました。

### ( 2 ) ワークショップの手法と流れ

本ワークショップを実施するにあたり、エコツアー 1 日目に参加者に向けて、『「私の視点」記録シート』( 図 1 ) を配布し、ワークショップまでに各自記入していただきました。上記のシートの記入を前提として、本ワークショップを進行しました。

なお、本ワークショップのファシリテーターは、兵庫県立人と自然の博物館の橋本佳延氏に担当していただきました。

#### 【ワークショップの流れ】

テーマ 1 : 和歌山県・徳島県エコツアー体験学習の感想の共有

- ・ 1 日目の和歌山県エコツアー体験学習の感想 ( 印象に残ったこと・気になったこと )
- 訪問場所 : 和歌山県立自然博物館、和歌浦干潟、おととつと広場、玉津島神社

テーマ 2 : エコツアー主催のときに克服すべき課題と方法

- ・エコツアーの参加者 ( 旅行業者、有識者、行政、コンサルタント等 ) により、エコツアーを主催する際の課題等について話合い

全体の共有

- ・各班で意見交換の内容をまとめて発表し、参加者全員で共有

まとめ（橋本先生）

- ・特殊性をどう打ち出すか（お客様の満足度）
- ・保全側の想い ツアー旅行者の想い コミュニケーションが必要
- ・あなた（エコツアー）が去ったあとにも良い効果が残る
- ・エコツアーでのマナー

平成 30 年 10 月 23～24 日

和歌山県・徳島県エコツアー体験学習  
「私の視点」記録シート

この度は、本エコツアー体験学習へのご参加、有難う御座います。お手数をお掛けしますが、以下の質問にご記入していただき、解散前に事務局スタッフにご提出お願い致します。

頂いたご意見は、今後のエコツアー体験学習に反映させて頂きます。また、23 日夜のワークショップでは、本用紙に書かれたご意見を活用して意見交換を図りますので、お時間のある際にご感想やご意見を記載して頂けると助かります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

【質問 1】ツアー参加者の視点で見たとき、訪問先の見聞で感じたこと、印象に残ったこと/ものはなんですか？

和歌山県
徳島県

【質問 2】ご自身がエコツアーを主催する立場とした時、今回のツアーで感じた課題や付け加えたいことはなんですか？

課題	付け加えたいこと

【質問 3】ご自身がエコツアーを企画する立場とした時に、今回のツアーの中で参考にしたいことや、そこからヒントを得たアイデアをお書きください。

--

ご協力有難うございました。

和歌山県・徳島県エコツアー体験学習 事務局一同

図 1 ワークショップのための事前配布資料

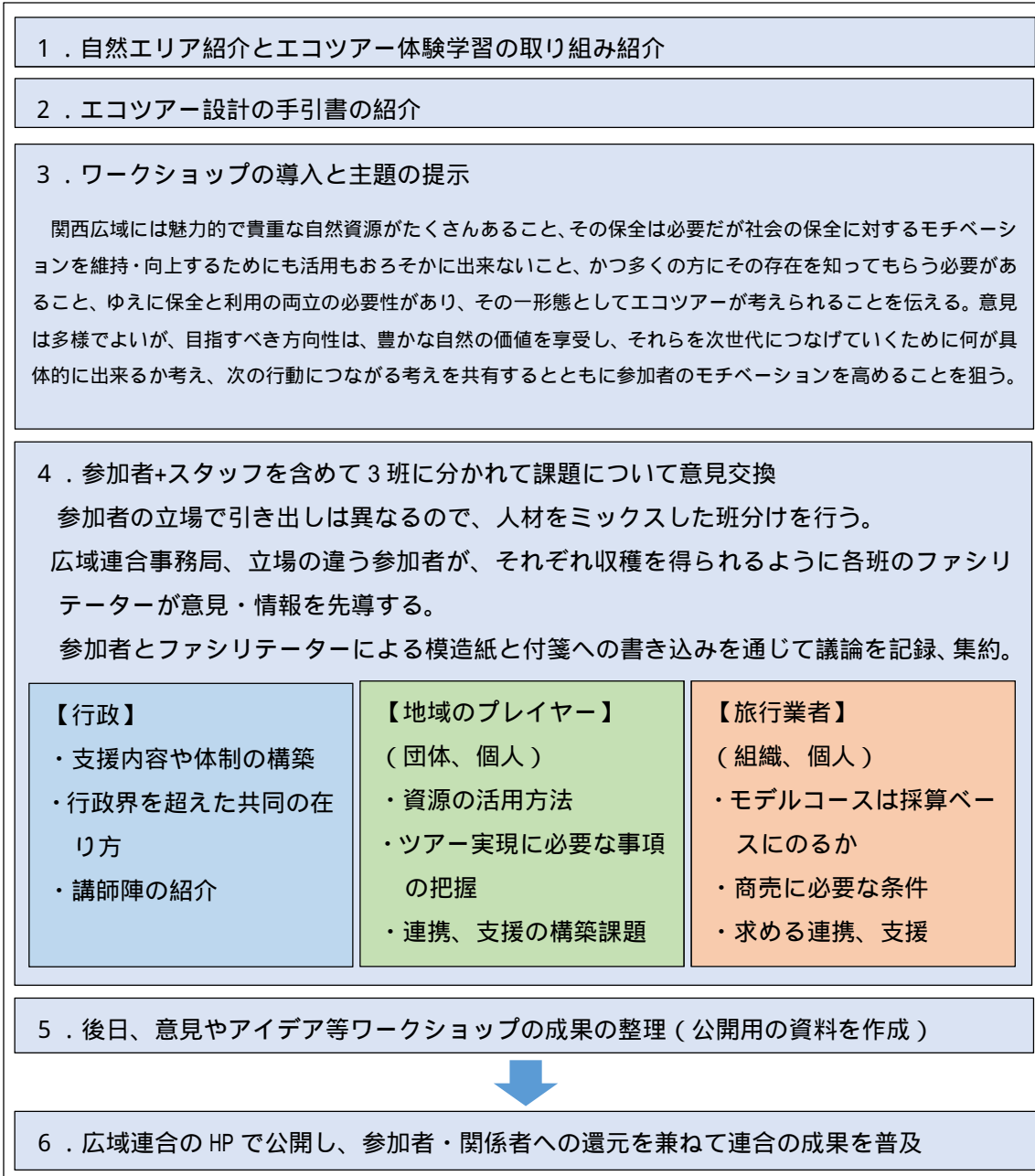


図2 ワークショップの進行



ワークショップの様子



ワークショップの導入と主題の提示



課題について意見交換とKJ法による整理



班ごとに発表

### (3) ワークショップの結果

本ワークショップにより参加者から出された意見の概要や、総括を以下に記します

#### 【話合により出された意見】

##### 1 日目の感想

- ・水族館のバックヤードと、たくさんの魚が観れたことが印象に残った。
- ・和歌浦干潟を掘り起こす等、より能動的な生きもの探しがしたかった。
- ・船上での解説が新鮮だった。
- ・(昼食時の)3種類の干潟があることや漁獲方法の紹介が面白かった。
- ・地域らしい料理(しらす丼)が美味しかった。
- ・不老橋に関連する環境保全の歴史話では、橋の見方が変わった。自身の環境意識の向上につながった。

### 自然に対する価値観

- ・日本は海外に比べ、自然に対してあまりお金を払わない傾向にある。
- ・海外だと国立公園には入場料が設定されており、入場料を園内の保全に使用している。
- ・自分が直接利用するもの（認識できるもの）やサービスにはお金を払うが、自然のように、あって当たり前と思うものに対して、楽しむことや保全等にお金を払う文化はない。
- ・インバウンドには、日本のマナーや規則、規制が分からない（例：立ち入れる場所、捕獲等してよいもの等）。

### 自然でお金を稼ぐ仕組み

- ・地域ならではの内容を企画し、それに見合うエコツアーの料金設定が必要。
- ・地域独自のお土産等で、お金を落とせるようにする。
- ・よくある内容で終わらせない（自然＋歴史等）。
- ・「手作り感」の魅力をアピール（どこでもできる内容ではないように）。
- ・地域の人々の暮らしと交流は魅力的なコンテンツになる。
- ・盛り上がる仕掛けが必要。
- ・地域独自の郷土料理と食文化の紹介。
- ・長期滞在（2泊以上）のコンテンツづくり
- ・夏休み自然体験や子供自由研究等のコンテンツづくり
- ・コンテンツに体験を盛り込むことは欠かせない。

### エコツアーはテーマやコンセプトが大事

- ・あくまでお客様主体、お客様に求められるコンセプトづくりが重要。価値の創出の工夫。
- ・ストーリーが大事。ツアーとして楽しめる、興味をもつ内容が必要。
- ・保全意識が大きすぎると、お客様はついていけなくなる。まずは、参加者全員でなくても興味を持ってもらうところから。
- ・保全や自然の話しを聞くばかりだと疲れる。能動的に参加できる項目を設定する等、工夫が必要。あくまでお客様主体に考える。
- ・食時、移動、宿泊等も大事。
- ・その地域ならではのもの、体験が必要。地域の住民にとっての日常生活でもエコツアーのテーマや要素になりうる。
- ・見所地点毎のストーリーが繋がっていることが大事。

### コンセプト以外にもコーディネーターや解説者が大事

- ・訪問地に対する造詣が深い解説者がいるのといないのでは内容に大きな差があり、参加者に合わせた話題提供ができるとなお良い。ガイドの質が大事。
- ・情報を持っており、フラットに問い合わせられる行政が、エコツアー企画者とガイドと

のマッチングを補助していただけると助かる。

- ・エコツアーの保全側と活用側を含めた交流があると良い。
- ・主にインバウンドを対象に、日本のマナーや規制、規則をまとめた資料、リーフレット、DVD 等があるべきで、ガイドによる注意喚起やバス移動中での DVD 上映等で意識付けが図れる。
- ・地域の日々の暮らしが見える解説が重要。

#### 協働の推進

- ・地元の人々との交流を促進し、コンテンツを作る。
- ・漁業組合等との協力関係づくり。
- ・地域の人たちが先生になる。
- ・旅行業者との連携

#### ターゲット

- ・地域の子どもを対象にした環境学習（非営利）
- ・地域のことに興味のある住民を対象とした環境学習（非営利）
- ・地域との交流を目的とした地域の住民（営利・非営利）
- ・地域との交流を目的とした外国人（営利・非営利）
- ・特別な（非日常的な）体験を目的とした地域外の住民（営利）
- ・特別な（非日常的な）体験を目的とした外国人（営利）
- ・地域との交流を目的とした地域の住民（営利・非営利）
- ・地域との交流を目的とした外国人（営利・非営利）
- ・マニアックなニッチ（市場）を狙う手もあり

#### 【ワークショップの総括】

##### 課題

- ・ツアーの利益をどう自然保護に循環させるか（保全側の人意見が強い）
- ・エコツアーでのマナー問題：旅行者（客）として訪れた際、悪い影響を地元にもたらさないようにする。「楽しませてもらった分、地元にとっても気持ち良い形で帰っていく」という思いから出た課題。
- ・旅行業の方からすると、連れて行くからにはその地域の持つ「特殊性」を強く打ち出したいが、作り込めば作り込むほど平準化されるという意見もあり、どう打ち出すかが課題。
- ・保全側の思いとツアー旅行者の思い、旅行者をもてなす旅行業者の思いという部分を見ると、まだコミュニケーションが必要なのかなと感じる。
- ・保全の人は自分自身を中心に考えがち。気持ちは重々わかるが、ツアー旅行者やツアー

企画者にもっと歩み寄らなければいけないという気がする。

- ・エコツアー実施について、様々な課題が今回浮かび上がったが、今回訪れた場所はコンテンツの宝庫であり、様々なツアーを組むことができる。このような場所で、課題に対して納得できるように、何度もテストをやるべき。

サステイナブルなエコツアーにするために

- ・「ツアー実施後も地元やその場所に良い効果が残るツアーをどう実現させていくか？」という思いでコミュニケーションをとることで、旅行業者が連れてきた旅行者が「楽しかった」「ありがとう」という気持ちで帰り、その「ありがとう」という気持ちが保全の気持ちに繋がったり、お金の形に繋がったりしていく。お金の形になったものが自然保護に活かされ、また新しい旅行者が来た時に「ありがとう」と言ってもらえるような環境を作る、そういう循環ができるようなコミュニケーションをした方が良い。
- ・コミュニケーションをしていかないと前に進まない。実際コミュニケーションからアクション（行動）へどう繋げていくかが重要なのではないか。
- ・今回のWSでは、コミュニケーションはある程度できたが、アクションに繋がるような議論は深められなかったように思う。
- ・次何か機会があった時等、ここで気心が知れた人同士で、トライアル（試行）でもいいが、何かアクションが生まれることを期待してまとめとしたい。